

コラム

SXSW2019 参加報告

小沢 健悟^{1,a)}

The Report of SXSW2019

KENGO OZAWA^{1,a)}

1. はじめに

SXSW [1] は、アメリカテキサス州で毎年3月に開催される世界規模のフェスティバルである。当初は音楽フェスティバルとして開催されていたが、現在ではそのコンテンツの幅を広げ、映画やテクノロジーといったジャンルも盛り上がりを見せており、最新技術の動向を知る機会としても活用されている。

VR/AR/MR 関連の展示も多いということで、今回筆者は株式会社メルカリの XR チームの一員として派遣していただいた。



図1 ACC内のTradeShowの様子

2. SXSWの歩き方

SXSWはACC(オースティンコンベンションセンター)を中心に市街地全体を使って開催される。そのため行動範囲が広く、移動にはシャトルバスや電動キックボードを使う人が多い。ACCでは各国企業のブースが並び、会期後半にはゲームの展示へ換装していた。ACC以外では、周辺のホテルや建物を使ってコンテンツを展示、トークセッション・パネルセッションを開催するなど、街中で絶えず様々なイベントが開かれていた。映画や音楽ライブは至る所で

¹ 東京大学大学院学際情報学府
Initiative in Information Studies, The University of Tokyo,
Bunkyo, Tokyo 113-0033, Japan

^{a)} kengorou2014@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

開催されており、すべてのコンテンツを見て回ることは不可能である。フェスティバルというに相応しく街全体が盛り上がりしており、会期中は無料で飲食できるスポットや企業の配布アメニティなどもあり、総合的に見てエンターテインメント色の強いイベントであった。

今回は11名での視察であったため、情報交換が頻繁に行われて個人では収集しきれないブースの情報やセッションの情報、現地の美味しいレストラン情報などを手に入れることができた。



図2 現地での食文化もしっかり視察

3. ブース・体験

SXSWでは大企業からスタートアップベンチャ、果ては個人制作までと様々な展示がなされている。ここでは特にTradeShow, VirtualCinemaを紹介する。

TradeShowはACCにて会期前半に開かれる企業によるブース展示である。様々な分野の様々な規模の企業が自社の製品やサービスを展示し、ビジネスにつなげることを目的としている。特徴としては、スタートアップ企業の多さにあると考えている。筆者と同年代と思しき人たちもスタートアップの出展ブースで対応しているのを見かけ、自分も何かやらなければ...!という焦りを感じた。

VirtualCinemaは、いわゆるVR作品の展示で、約20のコンテンツが展示されていた。360度動画を視聴するもの、HMDを被って歩き回るインタラクティブ性のあるも

の、ゲームのようなものなど形式は様々であった。その中で筆者は映像に応じて、傾いたり回転したりする卵型の椅子に座って火星へ旅行する映像コンテンツを体験した。現在、映画の視聴体験には4DXによる没入度を高める演出が普及しているが、このような椅子が映画館に導入されてHMDで好きな映画をオンデマンドで観られる時代が早く来て欲しいと思った。



図 3 卵型の椅子に座ってHMDで映像を視聴する様子

地に実際に行ってみるという経験はとても貴重であることが分かった。

参考文献

- [1] SXSW, <https://www.sxsw.com/> (参照 2019-05-23).

4. まとめ

以上がSXSWに関する参加報告となるが、参加してみた感想をここに記述する。筆者の私見であるが展示・体験コンテンツの中でも日本ブースは総じて海外の人から注目されており、つねに人が集まり賑わっていた。実際に経済産業省主催の「The New Japan Islands」や東京大学発のチーム「BionicM」など、日本人勢のアワード受賞もいくつか存在する。

特にVR/AR/MRに関して日本の作品と海外の作品で違いを感じた。日本の作品の多くは、VR/ARを単なるゲームや情報提示手段としての利用はしておらず、そこから一歩踏み込んだ問いかけのあるテーマを持っていた。対して海外の作品は、日本のものほどテーマを凝ったり捻ったりはしていないが、ブース自体の作り込みや演出がとても上手で体験者がより体験に没入できるような工夫がされていた。今後、筆者が何かを開発・展示する際には、両者の良いところをうまく取り入れたいと思う。

最後に、この文章ベースのレポートで伝えきれない現地の体験や雰囲気が多分にある。今回、筆者は幸運にもSXSW2019に参加でき、初めての海外視察となったが、現



図 4 メンバーで集合写真